

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「SBIインド・スリランカ・バランス・ファンド（年4回決算型）」は、2018年10月5日に第4期決算を行いました。

当ファンドは、主として「ステイト・バンク・オブ・インド・インデックス株・マザーファンド」及び「SBIボンド スリランカ短期国債ファンド（適格機関投資家専用）」への投資を通じて、実質的にインドの株式及びスリランカの債券に投資を行い、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行いました。ここに期中の運用状況と収益分配状況についてご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

第4期末(2018年10月5日)

基準価額	9,180円
純資産総額	677百万円
第3期～第4期	
騰落率	△ 3.8%
分配金(税込み)合計	0円

(注1) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

(注2) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注3) 当報告書における比率は、表示桁未満を四捨五入しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、右記ホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>
右記URLにアクセス ⇒ 「ファンド情報」 ⇒ 「当該ファンド」を選択 ⇒ 「目論見書・定期レポート等」を選択 ⇒ 「運用報告書(全体版)」より該当の決算期を選択ください。

SBIインド・スリランカ・ バランス・ファンド (年4回決算型)

追加型投信／海外／資産複合

交付運用報告書

第2作成期

第3期(決算日2018年7月5日) 第4期(決算日2018年10月5日)

作成対象期間(2018年4月6日～2018年10月5日)

 SBI Asset Management

SBIアセットマネジメント株式会社

東京都港区六本木1-6-1

お問い合わせ先

電話番号 03-6229-0097

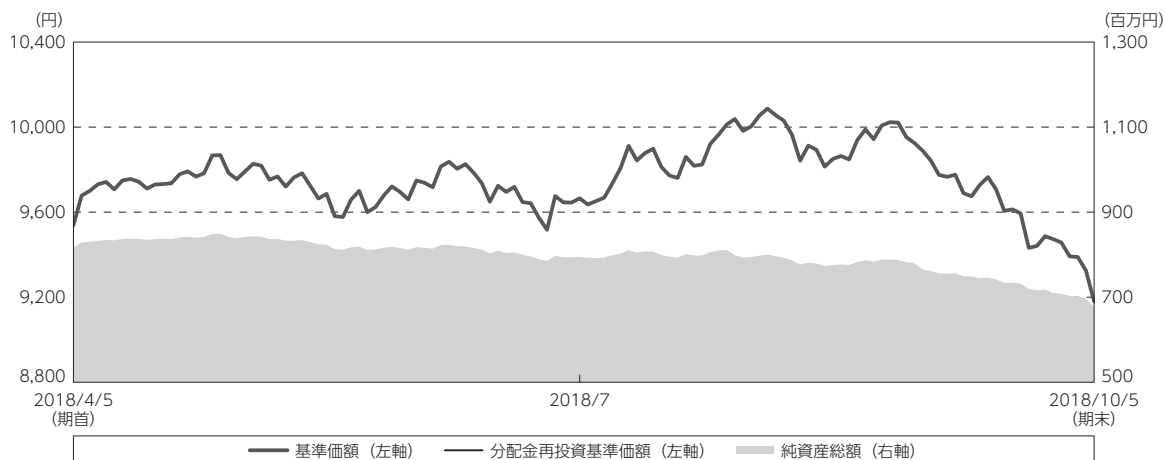
受付時間：営業日の9：00～17：00

ホームページから、ファンドの商品概要、レポート等をご覧いただけます。
<http://www.sbiam.co.jp/>

運用経過

基準価額等の推移

(2018年4月6日～2018年10月5日)



第3期首：9,538円

第4期末：9,180円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：△3.8% (分配金再投資ベース)

(注1) 当ファンドは主として「ステイト・バンク・オブ・インド インド株・マザーファンド」及び「SBIボンド スリランカ短期国債ファンド (適格機関投資家専用)」への投資を通じて、実質的にインドの株式及びスリランカの債券に投資を行うため、ベンチマークはありません。また適当な参考指数もないことから、参考指数等も記載しておりません。

(注2) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したとみなして計算したファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注3) 分配金の再投資についてはお客様がご利用のコース等により異なります。また、ファンドの運用経過については、当ファンドのパフォーマンスを示したものであり、ファンドの購入価額により課税条件等が異なるため、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注4) 分配金再投資基準価額は、期首(2018年4月5日)の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドの分配金再投資基準価額は、インドのマクロ経済環境が悪化する中でも、主にインド国内の投資家による投資信託への積立投資を通じて株式市場が一段高となるなど上昇基調が継続しました。また、株式市場の堅調推移に加えてリスク回避の後退などにより、為替相場が円安基調に転じたことも相まって、当ファンドの分配金再投資基準価額は緩やかに上昇しました。しかしながら、その後はインド金融セクターに対する信用不安が広まったことなどにより、当ファンドの分配金再投資基準価額は下落に転じ、期を通じて△3.8% (分配金再投資ベース) の下落となりました。

1万口当たりの費用明細

(2018年4月6日～2018年10月5日)

項 目	第3期～第4期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 会 社)	65 (32) (32) (2)	0.671 (0.325) (0.325) (0.022)	(a) 信託報酬＝作成期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	4 (4)	0.041 (0.041)	(b) 売買委託手数料＝作成期中の売買委託手数料÷作成期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有 価 証 券 取 引 税 (株 式)	4 (4)	0.036 (0.036)	(c) 有価証券取引税＝作成期中の有価証券取引税÷作成期中の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (監 査 費 用) (印 刷) (そ の 他)	41 (3) (5) (11) (22)	0.422 (0.033) (0.055) (0.109) (0.225)	(d) その他費用＝作成期中のその他費用÷作成期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 開示資料等の作成・印刷費用等 インド株式の売買益におけるキャピタルゲイン課税等、信託事務の処理等に要するその他費用
合 計	114	1.170	
作成期中の平均基準価額は、9,719円です。			

(注1) 作成期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注3) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注4) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

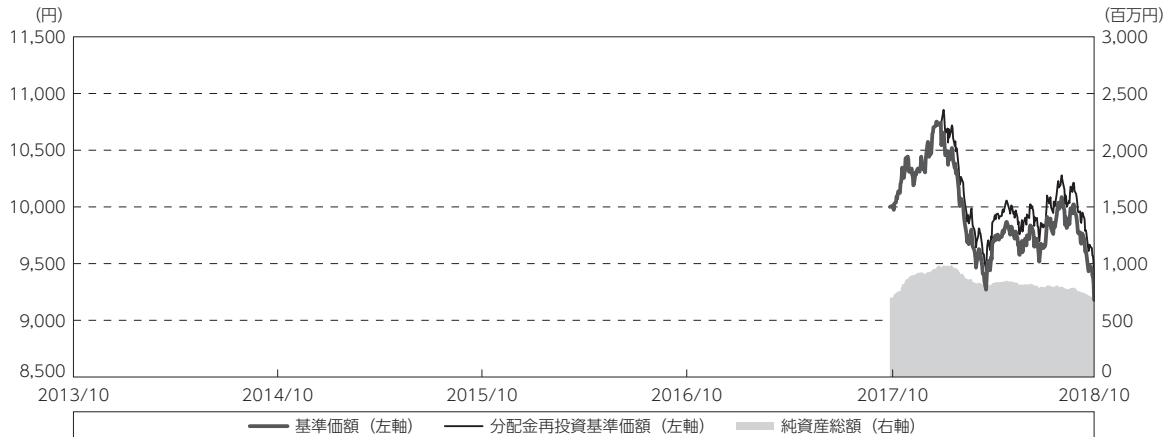
(注5) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)が支払った費用を含みません。

当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入れ上位ファンドの概要」に表示しております。

(注6) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

最近5年間の基準価額等の推移

(2013年10月7日～2018年10月5日)



- (注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したとみなして計算したファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注2) 分配金の再投資についてはお客様がご利用のコース等により異なります。また、ファンドの運用経過については、当ファンドのパフォーマンスを示したものであり、ファンドの購入価額により課税条件等が異なるため、お客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注3) 当ファンドについては設定日以降のデータが5年に満たないため、実在するデータ(2017年10月6日から2018年10月5日)のみの記載となっております。

	2017年10月6日 設定日	2018年10月5日 決算日
基準価額 (円)	10,000	9,180
期間分配金合計(税込み) (円)	—	200
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 6.5
純資産総額 (百万円)	700	677

- (注1) 当ファンドは主として「ステイト・バンク・オブ・インド インド株・マザーファンド」及び「SBIインド スリランカ短期国債ファンド(適格機関投資家専用)」への投資を通じて、実質的にインドの株式及びスリランカの債券に投資を行うため、ベンチマークはありません。また適当な参考指数もないことから、参考指数等も記載していません。
 (注2) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
 (注3) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2018年10月5日の騰落率は設定当初との比較です。

投資環境

(2018年4月6日～2018年10月5日)

<インド>

【インド株式市場】

2018年年初から新興国市場を中心にマクロ経済環境が不透明となる中、高い成長力を背景に堅調な推移となりました。インド株式市場の代表的な指標であるSENSEX指数は、大きな調整もなく8月末に38,896ポイントまで上昇したものの、その後は当ファンドの決算日である10月5日までに△11.6%の下落となる34,376.99ポイントまで下落しました。

インドのマクロ経済環境が悪化する中でも、主に国内投資家による投資信託への積立投資を通じてインド株式市場が一段高となるなど上昇基調が継続し、過去最高値の更新が続きました。しかし、不良債権への懸念が金融セクター内で燃っていたことに加え、8月末にインドのインフラ開発・金融大手のIL&FS社が社債等の利払いや元本償還ができずに、債務不履行（デフォルト）に陥ったことをきっかけとして、株価は下落基調へ転換しました。

【SENSEX指数の推移】



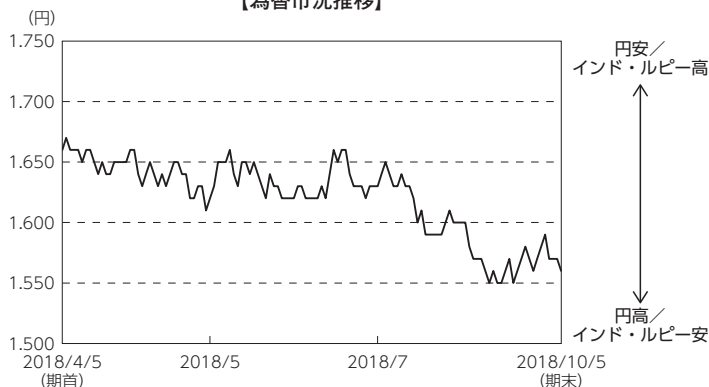
出所：Bloombergのデータを基にSBIアセットマネジメントが作成

【為替市況】

インドルピーの対円レートは、期中はレンジ内で推移していたものの、8月以降は新興国通貨全般に売り圧力が強まったことに加えて、原油高による経常赤字の拡大懸念により、対ドルで売りが膨らみました。

当期末にかけて1ルピー＝1.5円台へ下落しました。

【為替市況推移】



※為替レートは、一般社団法人投資信託協会が発表する対顧客電信売買相場仲値を採用しています。

<スリランカ>

※以下のコメントの内容は、SBIボンド・インベストメント・マネジメント株式会社からのコメントを基にSBIアセットマネジメントが編集したものです。

【スリランカ国債市況】

期の前半は、スリランカ短期国債利回りは低下（債券価格は上昇）基調となりました。スリランカ中央銀行が4月4日に開催された金融政策決定会合にて政策金利の上限を0.25%引き下げたことに加え、スリランカ政府が取り組んでいる財政赤字削減政策への期待感や国内インフレ指標の鈍化などが利回り低下の要因となりました。

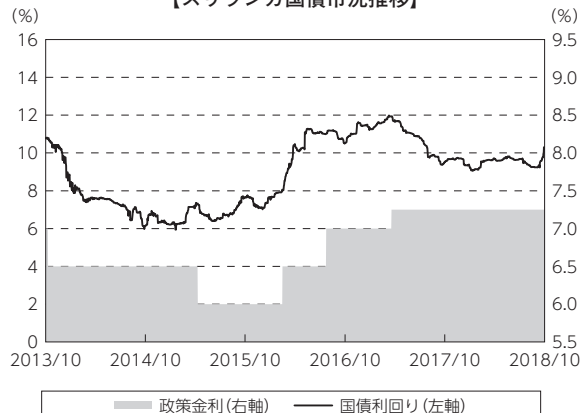
期の後半は、スリランカ短期国債利回りは上昇（債券価格は下落）基調となりました。トルコ・リラが急落するなど新興国リスクが懸念されたことに加えて、株式市場が下落するなど、リスクオフ局面となったことが利回り上昇の要因となりました。

【為替市況】

期を通じてみると、スリランカ・ルピーは円に対して下落する展開となりました。期の前半は、為替市場では円安基調となりました。スリランカ中央銀行は通貨が対米ドルで大きく動いた際には自国通貨介入実施をする用意があることを示唆しているため、スリランカ・ルピーは安定的に推移しました。また、米ドルが金利先高観を背景に円に対して上昇したことで、米ドルと概ね連動するスリランカ・ルピーも円に対して上昇しました。

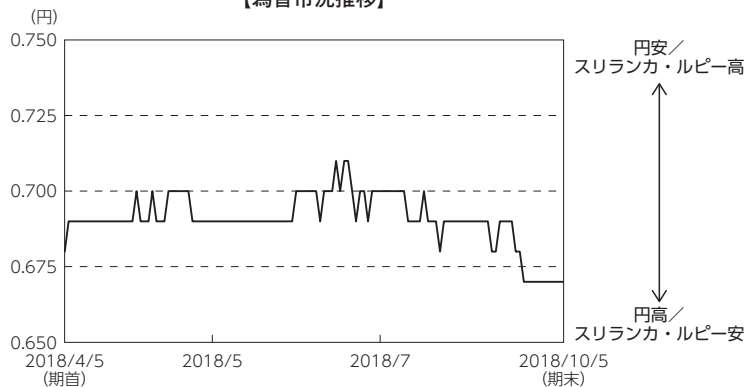
期の後半は、為替市場では円高基調となりました。株式市場が下落するなどのリスクオフ局面において米ドルが下落し円が上昇したことで、米ドルと概ね連動するスリランカ・ルピーも円に対して下落しました。

【スリランカ国債市況推移】



出所：Bloombergのデータを基にSBIアセットマネジメントが作成
 ※政策金利はスタンディング・ファシリティーの預入金利（SDFR）を使用しています。
 ※国債利回りは2年国債利回りを使用しています。
 ※データ期間（2013年10月5日～2018年10月5日）

【為替市況推移】



※為替レートは、一般社団法人投資信託協会が発表する対顧客電信売買相場仲値を採用しています。

当ファンドのポートフォリオ

(2018年4月6日～2018年10月5日)

<当ファンド>

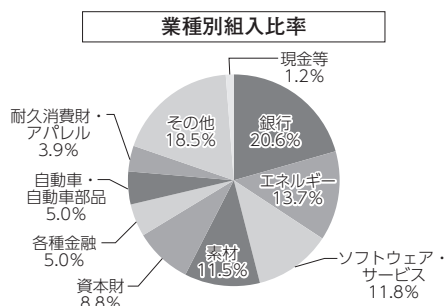
主として「ステイト・バンク・オブ・インド」インド株・マザーファンド」及び「SBIインドスリランカ短期国債ファンド（適格機関投資家専用）」への投資を通じて、実質的にインドの株式及びスリランカの債券に投資を行い、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行いました。

また、基本投資割合をインド株式60%、スリランカ債券40%とし、市況環境、資金動向に応じて機動的に変更を行いつつ運用いたしました。

<ステイト・バンク・オブ・インド 株・マザーファンド>

運用の再委託先であるSBI・ファンズ・マネジメント・プライベート・リミテッドにより、インドの証券取引所で上場または取引されている株式の中から収益性や成長性等を総合的に勘案し厳選投資いたしました。

なお、直近9月末時点におけるポートフォリオについては以下の通りとなっております。



※組入比率はいずれもマザーファンドの純資産総額比です。
 ※四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

組入上位銘柄

	銘柄名	業種	比率 %
1	リライアンス・インダストリーズ	エネルギー	8.1
2	インフォシス	ソフトウェア・サービス	7.0
3	アクシス銀行	銀行	5.4
4	タタ・コンサルタンシー・サービス	ソフトウェア・サービス	4.8
5	HDFC	銀行	4.4
組入銘柄数		60銘柄	

<SBIボンド スリランカ短期国債ファンド(適格機関投資家専用)>

スリランカの短期国債等(国債、政府保証債、政府機関債)及び国際機関債を主要投資対象とし、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行いました。

なお、直近9月末時点におけるポートフォリオについては以下の通りとなっております。

保有債券の属性情報

平均残存期間(年)	0.8
平均修正デュレーション	0.7
平均クーポン(%)	10.62
平均直接利回り(%)	10.56
平均最終利回り(%)	9.70
平均格付け	B+

※保有債券の時価評価額を基に加重平均し計算しています。

※格付はS&P、ムーディーズ、フィッチの高いものを使用しています。

保有債券の通貨別構成比

スリランカ・ルピー	100.0%
米ドル	0.0%
円	0.0%

※上表については、SBIボンド・インベストメント・マネジメント株式会社の資料を基に、SBIアセットマネジメントが作成しています。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2018年4月6日～2018年10月5日)

当ファンドは主としてSBI・ファンズ・マネジメント・プライベート・リミテッドに運用を再委託する「ステイト・バンク・オブ・インディア インド株・マザーファンド」及びSBIボンド・インベストメント・マネジメント株式会社が実質的な運用を行う「SBIボンド スリランカ短期国債ファンド(適格機関投資家専用)」への投資を通じて、実質的にインドの株式及びスリランカの債券に投資を行い、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行うため、ベンチマークはありません。また、適当な参考指数もないことから、参考指数等も記載していません。

分配金

(2018年4月6日～2018年10月5日)

当作成期の分配金は、基準価額水準、市況動向等を勘案し、下表の通りといたしました。

なお、分配に充てずに信託財産に留保した収益につきましては、元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万円当たり、税込み)

項 目	第3期	第4期
	2018年4月6日～ 2018年7月5日	2018年7月6日～ 2018年10月5日
当期分配金	-	-
(対基準価額比率)	-%	-%
当期の収益	-	-
当期の収益以外	-	-
翌期繰越分配対象額	554	599

(注1) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の見通しと運用方針

<当ファンド>

引き続き、「ステイト・バンク・オブ・インディア インド株・マザーファンド」及び「SBIボンド スリランカ短期国債ファンド（適格機関投資家専用）」への投資を通じて、実質的にインドの株式及びスリランカの債券に投資を行い、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。

<ステイト・バンク・オブ・インディア インド株・マザーファンド>

運用の再委託先であるSBI・ファンズ・マネジメント・プライベート・リミテッドは以下のようにコメントしています。

足元ではインド大手企業のデフォルトにより信用不安が広まったことから、株価指数は調整しています。しかしながら、長期的な観点からみればインドの成長シナリオは引き続き強固なままであり、インド企業の2019年3月期決算は引き続き収益の回復が見込まれています。2017年に推進された構造改革（破産・倒産法の対象拡大、物品・サービス税の導入、不動産関連規制法の制定）は中期的にはインドの成長を促すものとなりましたが、インドの経済成長率の回復は一時的にせよ中断させられたことは明らかです。我々は、経済成長への悪影響は2019年にかけて解消し、インドの潜在的な生産能力は高まるとみています。構造改革の果実となる生産性の向上を背景に、インドの高成長は続くでしょう。一方、信用不安や地政学リスクなど不透明感がありますが、より一層ボトムアップ・アプローチによる銘柄選定に注力することが超過収益を得る一番の方法だと我々は考えています。

今後3-6カ月間並びに今後1年間のインド株式市場の見通しに関して、我々は前向きな見方をしています。

<SBIボンド スリランカ短期国債ファンド（適格機関投資家専用）>

当該投資信託を運用している、SBIボンド・インベストメント・マネジメント株式会社は、以下のようにコメントをしています。

スリランカでは、2017年に利払い費用等を除く基礎的財政収支（プライマリーバランス）が黒字になるなど、財政改革が行われており、ファンダメンタルズの改善が見られます。2018年のGDP成長率は4%程度に上昇すると見込まれていることに加えて、インフレ上昇率についても沈静化する見込みです。

債券市場においては、相対的に良好なファンダメンタルズを背景に、今後も海外投資家による継続的な資金流入が期待できることから、スリランカ短期国債利回りは安定的に推移することが見込まれます。

また、為替市場においては、米ドル/円に概ね連動するスリランカ・ルピー/円が、主に米ドルの影響を受けつつも、レンジ内で推移するものと見ています。

こうした環境下における当ファンドのパフォーマンスは、短期的には為替市場の影響を受けて変動する局面も想定されるものの、長期的にはスリランカ短期国債の相対的に高いインカム収益を中心にファンドの収益が積み上がっていくとみています。

運用においては、引き続き主にスリランカ現地通貨建て短期国債での運用を継続する方針です。また残存年数が短くなった銘柄については、一部入れ替えによる長期化も図る予定です。

お知らせ

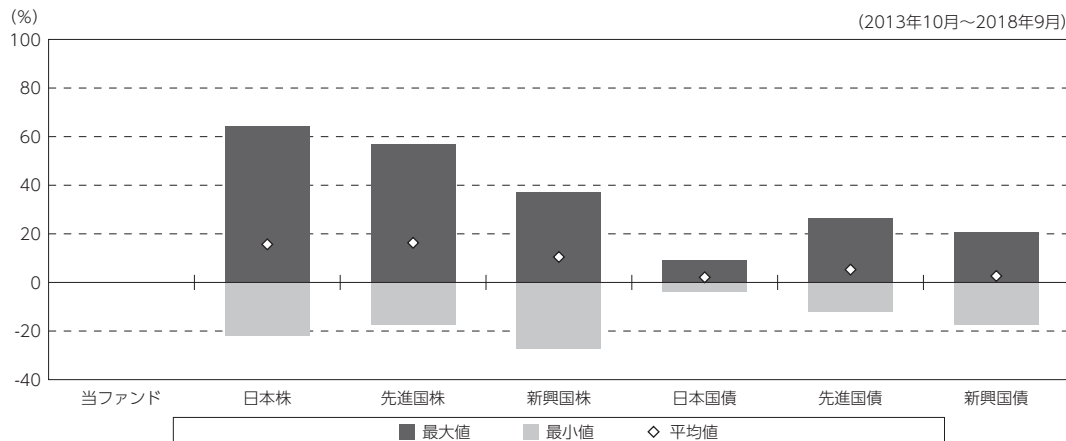
該当事項はありません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／資産複合
信託期間	無期限（設定日：2017年10月6日）
運用方針	この投資信託は、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。
主要投資対象	主として「ステイト・バンク・オブ・インディア インド株・マザーファンド」及び「SBIボンド スリランカ短期国債ファンド（適格機関投資家専用）」を主要投資対象とします。投資対象とする債券は国債、政府保証債、政府機関債、国際機関債等とします。 なお、今後の発展が見込まれる南アジア諸国の株式及び債券に投資する場合があります。
運用方法	主として「ステイト・バンク・オブ・インディア インド株・マザーファンド」及び「SBIボンド スリランカ短期国債ファンド（適格機関投資家専用）」への投資を通じて、実質的にインドの株式及びスリランカの債券に投資を行い、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。 また、原則としてインド株式60%、スリランカ債券40%を基本投資割合とし、市況環境、資金動向に応じて±10%の幅で機動的に変更するものとします。
分配方針	年4回（原則として1月、4月、7月、10月の各5日。休業日の場合は翌営業日。）決算を行い、原則として以下の方針に基づき収益の分配を行います。分配対象額は、繰越分も含めた経費控除後の配当等収益（マザーファンドの信託財産に属する配当等収益のうち、信託財産に属するとみなした額（以下「みなし配当等収益」といいます。）を含みます。）及び売買益（評価益を含み、みなし配当等収益を控除して得た額とします。）等の全額とします。委託者が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は、分配を行わないことがあります。なお、収益分配にあてず信託財産内に留保した利益については、運用の基本方針に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	-	64.2	57.1	37.2	9.3	26.6	20.8
最小値	-	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4
平均値	-	15.7	16.3	10.5	2.1	5.3	2.7

(注1) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 2013年10月から2018年9月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注3) 当ファンドについては、直近1年間の騰落率データがないため掲載しておりません。

(注4) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI - KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA - BPI国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド(円ベース)

※各指数についての説明は、P14の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2018年10月5日現在)

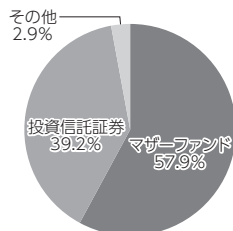
○組入上位ファンド

銘柄名	第4期末
	%
ステイト・バンク・オブ・インド インド株・マザーファンド	57.9
SBI債券 スリランカ短期国債ファンド(適格機関投資家専用)	39.2
組入銘柄数	2銘柄

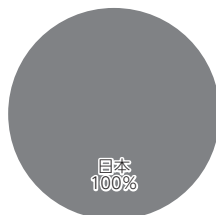
(注1) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

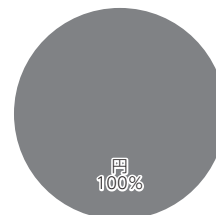
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注2) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

純資産等

項目	第3期末	第4期末
	2018年7月5日	2018年10月5日
純資産総額	795,062,415円	677,128,167円
受益権総口数	822,652,496口	737,618,566口
1万口当たり基準価額	9,665円	9,180円

(注) 作成期中における追加設定元本額は22,754,105円、同解約元本額は141,067,861円です。

組入上位ファンドの概要

ステイト・バンク・オブ・インディア インド株・マザーファンド

【基準価額の推移】

(2017年6月6日～2018年6月4日)



【1万口当たりの費用明細】

(2017年6月6日～2018年6月4日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株式)	32 (32)	0.199 (0.199)
(b) 有価証券取引税 (株式)	28 (28)	0.174 (0.174)
(c) その他費用 (保管費用) (その他)	132 (23) (109)	0.815 (0.142) (0.673)
合計	192	1.188

期中の平均基準価額は、16,167円です。

(注) 上記項目の概要につきましては、P2をご参照ください。

【組入上位10銘柄】

(2018年6月4日現在)

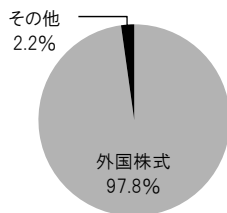
	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1	リライアンス・インダストリーズ	エネルギー	インドルピー	インド	6.7%
2	インフォシス	ソフトウェア・サービス	インドルピー	インド	5.9%
3	HDFC	銀行	インドルピー	インド	4.4%
4	アクシス銀行	銀行	インドルピー	インド	4.3%
5	マルチ・スズキ・インディア	自動車・自動車部品	インドルピー	インド	4.1%
6	タタ・コンサルタンシー・サービス	ソフトウェア・サービス	インドルピー	インド	3.8%
7	インドステイト銀行	銀行	インドルピー	インド	3.7%
8	ICICI銀行	銀行	インドルピー	インド	3.4%
9	ブハルティ・エアテル	電気通信サービス	インドルピー	インド	3.2%
10	バジャジ・ファイナンス	各種金融	インドルピー	インド	2.7%
組入銘柄数			62銘柄		

(注1) 比率は、純資産総額に対する割合です。

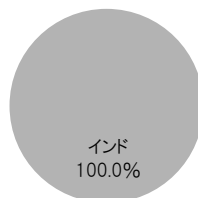
(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注3) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

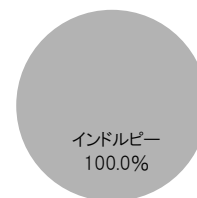
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 基準価額の推移、組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別のデータは2018年6月4日現在のものです。

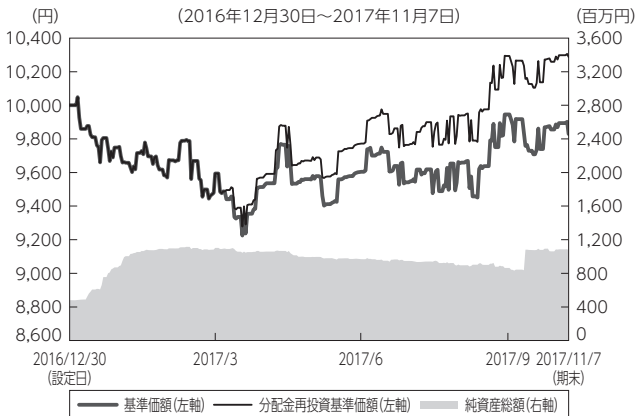
(注2) 資産別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注3) 国別・通貨別配分は組入株式評価額に対する比率です。

SBI債券 スリランカ短期国債ファンド (適格機関投資家専用)

以下は当該ファンドを運用するSBI債券・インベストメント・マネジメント株式会社からのデータを基に、SBIアセットマネジメントが作成しています。

【基準価額等の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2016年12月30日～2017年11月7日)

入手可能な費用明細のデータが存在しないため、掲載していません。

【組入上位10銘柄】

(2017年11月7日現在)

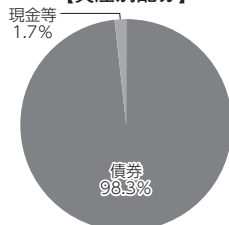
	銘柄名	国(地域)	比率
			%
1	SRILGB 8.5% 2018/4/1	スリランカ	27.9
2	SRILGB 10.6% 2019/9/15	スリランカ	22.8
3	SRILGB 10.6% 2019/7/1	スリランカ	17.4
4	SRILGB 7.5% 2018/8/15	スリランカ	13.9
5	SRILGB 10.75 2019/1/15	スリランカ	10.9
6	SRILGB 8.5 2018/6/1	スリランカ	7.2
7	—	—	—
8	—	—	—
9	—	—	—
10	—	—	—
	組入銘柄数	6銘柄	

(注1) 比率は、純資産総額に対する割合です。

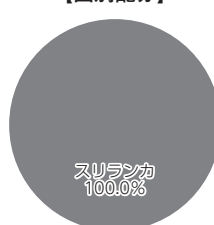
(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注3) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 基準価額の推移、組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別のデータは2017年11月7日現在のものです。

(注2) 資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注3) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

○東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

○MSCI – KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI – KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○NOMURA – BPI国債

NOMURA – BPI国債は、野村証券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA – BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村証券株式会社に帰属します。

○FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド(円ベース)

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。